

## &lt;日程&gt;

【行き】 7日大宮 1920 発の予定だったが 1718 地震発生。東北地方震度 5。新幹線運転見合わせ。陸前高田も避難勧告が出たが 1930 頃解除となり落ち着く。また新幹線も動き学生が来たため一ノ関駅まで迎えに行き 2200 頃到着。サポートハウスには 24 時過ぎ到着となる。

【帰り】 10日陸前高田 15 時発、一ノ関駅 1810 発

参加者二人とも 9 日の授業は無いということで日程を延長し、9 日の陽がある内に峠を通過して帰る。

## &lt;参加者&gt;

- ・ 福祉学科 3 年生 (5 回目)
- ・ 福祉学科 3 年生 (3 回目)

## &lt;プログラム内容&gt;

7日		地震の影響と雪のため到着が大幅に遅れた。高田地区に寄り暗闇の中の元市役所や体育館跡などを体感する。
8日	1000	吉田富男氏宅訪問交流：夜 SH に招いていたが「玄関に飾った塩尻での写真などをどうしても見せたいので来て欲しい」ということで訪問する。
	1330	買い物：看板作りのための道具をホームックに買いに行く。
	1430	シタボ：看板作り
	1630	SH に戻り、吉田チヨ子さんと鍋焼きの材料などを買い物に行く どんこ汁、鍋焼き(おやつ)、かわはぎの煮付け、などを一緒に作って食べ交流
	2100	片付け、入浴、ふり返り、寝具準備
9日	1000	大船渡病院に照井氏（モビリア仮設住民）を見舞う。涙ぐんで喜んで下さる。（ソーシャルワーカー室を外から見る）
	1230	東海新報社に寄り、寿限無亭にて交流
	1600	鮮魚シタボ：看板作り 看板製作後、仮設店舗の中で夕食を頂く。ふんだんな刺身や秋刀魚のすり身汁、さらにおやつで、かまもち、鍋焼きなどを作って下さる。 また、鹿撃ちの仲間が来て話しが弾むうちに鹿を見に連れて行っていただくことになる。
	2100	サポートハウスに戻り、ふりかえりなど。
9日		竹駒の「ミュー」訪問（5 回目）
	1300	矢作仮設住民桜田さん（Three-S メンバーの祖母）訪問
	1800	一ノ関到着 帰路



吉田さん宅にて



シタボさんの仮設店舗に看板完成



おやつ鍋焼きの作り方を教えてもらう



夕食を作って食べる（どんこ汁、カワハギの塩煮）

### <全体をとおして>

- ※ 大きな地震があり避難勧告も出たことから、車での移動を控えた。新幹線も一時止まり学生の到着が遅れた。
- ※ 地震時の様子については別に報告する
- ※ 人数が少なかったが、逆に少ないことで、病院へのお見舞い・桜田さん訪問・シタボさん店舗で夕食を頂くなど普段することが出来なかったことが出来た。交流が広がっていった。
- ※ 到着が遅れたことと、2人とも12月9日に授業が無かったことから活動日を1日延ばした。滞在費が掛からないことから活動時間のみ延長でき、多くの人を訪ねることができた。2回の夕食を一緒に作ることで交流も深まる。
- ※ 天候が、一日中零下に近いので、峠を車で越えるのは夜にならない方がいいと思われ、そのためには2泊3日必要。
- ※ 郷土料理やおやつ（鍋焼き・かまもちなど）を一緒に買い物して作ることで、学生が作り方を覚えることができる。できればIVY時に作って売るなどにつなげていきたい。今後のプログラムでは定例化することにした。

### <<地震と津波警報・避難勧告について報告>>

#### <震度4の地震発生>2012年12月7日（金）17時18分～

松山 真

市役所での活動を終えて、近くのコンビニに入ったときに地震が起きた。揺れはゆっくりと横に揺れる感じで1分以上長く続いた。スプレー缶などが少し落ちる程度だったが、長かったのでみな少し慌てていた。

- ・ 店長達はすぐに外に飛び出していき安全を確認していた
- ・ 一ノ関に学生を迎えに行くために出発しようとしていたが、津波警報が出たので、少し様子を見ようとサポートハウスに戻る。
- ・ テレビ・ラジオを付けて様子を聴く
  - 50センチの津波が1740到達予想。
  - 避難勧告が出て、市内10カ所で避難所が設定された。避難所の名前を読み上げていた。
  - サイレンが断続的に鳴り響いていた。
  - ラジオ（陸前高田災害FM）では、繰り返し次のように放送していた。
    - ◇ 「海には絶対に近づかないで下さい。」
    - ◇ 「津波は50センチの予想ですが、防潮堤が壊れたままで危険です。」
    - ◇ 「3.11を思い出して下さい。その時に津波が到達しなかった高台まで逃げて下さい。」
    - ◇ 「農免道（高台の道）は大変混雑しています。車では移動しないで下さい。」
    - ◇ 「避難所が設定されています。近くの避難所に避難して下さい。」

- 学生と連絡を取る。1754 発に乗る予定であった。「既に大宮駅にいるが新幹線が止まっている。動いても仙台までと案内されている。」とのこと。動いたら連絡するように伝えた。しばらく様子を見て動かないようであれば 13 期プログラムを中止することも考えた。
- 支援本部・森本先生などから連絡が入る。
- 1848 学生から「新幹線が動いたので乗車した。一ノ関まで行くらしい。」
- 1920 津波警報が解除される。(ようやくサイレンがとまる)
- しかしラジオでは「大きな余震が予測されていますので、警戒を続けて下さい。」と。テレビでも同様の報道を続けていた。
- 学生を一ノ関まで迎えに出発。道路の凍結が予測されるので、気仙沼経由で行こうとしていたが、海岸線を走ることから念のためにやめ、峠を通ることにする。
- 市内の高台の道は混んでいない。夕食を食べようとするが、20 時まで開いているはずのスーパーも既に閉店。山の上のコンビニでは、おにぎり、サンドイッチ、水などは全て売り切れている。竹駒のコンビニなども全て閉店。灯りもほとんど消えている。
- 交差点には消防車が赤色灯を点けて停まって警戒している。
- 峠は4度！
- 一ノ関のコンビニでようやくおにぎりなどを購入できる。
- 2050 一ノ関駅到着
- 2200 学生が乗った新幹線到着
- 0 時 サポートハウス到着 (途中、道が凍結しているためゆっくり走り、真っ暗な高田地区を通り下車してみるなどした)

#### <市の状況>

- 最終的には市内 12 カ所で避難所が設定された。
- サポートハウス近く (200m くらい) の「西ノ坊会館」も避難所になり、中学生が避難していた。その他広田では、保育園から 24 名が避難しているとラジオで言っていた。
- 合計 279 名の方が避難所に避難されていたとのこと (市広報)

以上